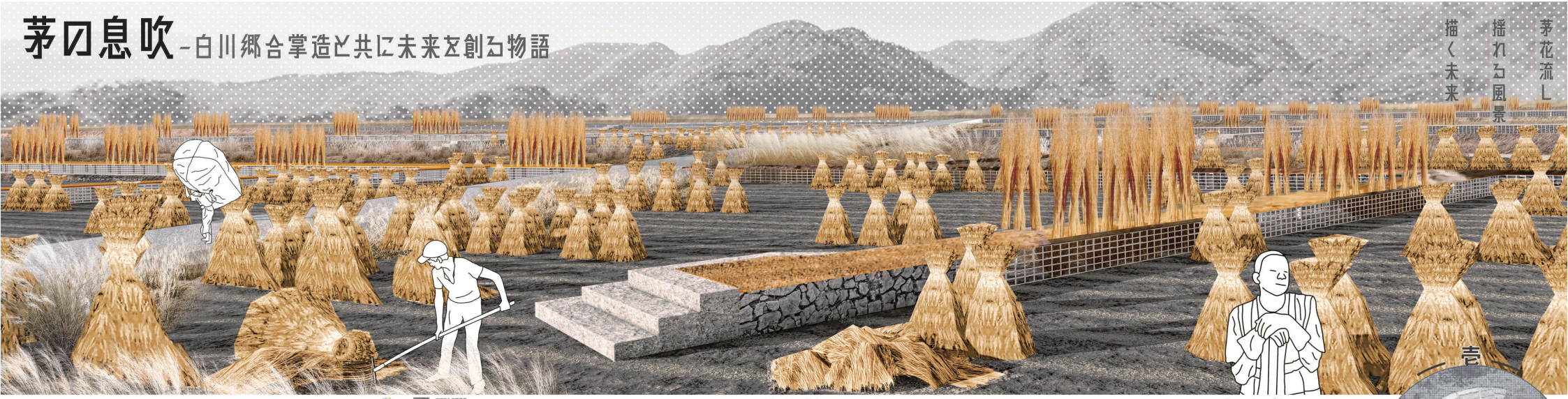
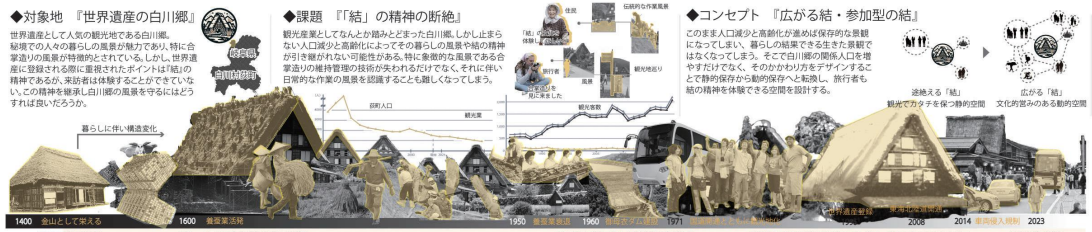
茅の息吹 -白川郷合掌造と共に未来を創る物語

茅花流し
揺れる風景
描く未来



◆対象地 『世界遺産の白川郷』

世界遺産として人気の観光地である白川郷。
秘境での人々の暮らしの風景が魅力で彩り、特に合掌造りの風景が特徴的とされている。しかし、世界遺産に登録される際に重視されたポイントは「結」の精神であるが、来訪者は体験することができていない。この精神を継承し白川郷の風景を守るにはどうすれば良いだろうか。



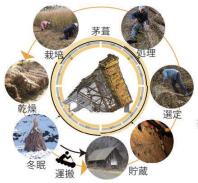
◆課題 『「結」の精神の断絶』

観光産業としてなんとか踏みとどまった白川郷。しかし止まらない人口減少と高齢化によってその暮らしの風景や結の精神が引き継がれない可能性がある。特に象徴的な風景である合掌造りの維持管理の技術が失われるだけでなく、それに伴い日常的な作業の風景を認識することも難しくなってしまう。

◆コンセプト 『広がる結・参加型の結』

このまま人口減少と高齢化が進めば保存的な景観になってしまい、暮らしの結果でさえ生きた景観ではなくなってしまう。そこで白川郷の関係人口を増やすだけでなく、そのかかわり方をデザインすることで静的保存から動的保存へと転換し、旅行者も結の精神を体験できる空間を設計する。

◆手法 『プロセスの風景化』



『結』の精神の代表例である茅葺き屋根に着目し屋根になるまでの過程を風景化し旅行者に体験してもらい、結の精神を体験できる空間を設計する。

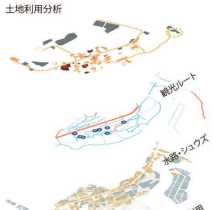
風景化による新たな経済循環

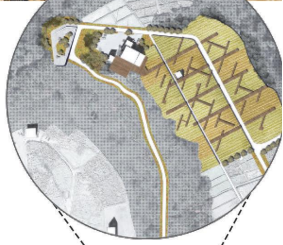
◆未来 『共生の白川郷』

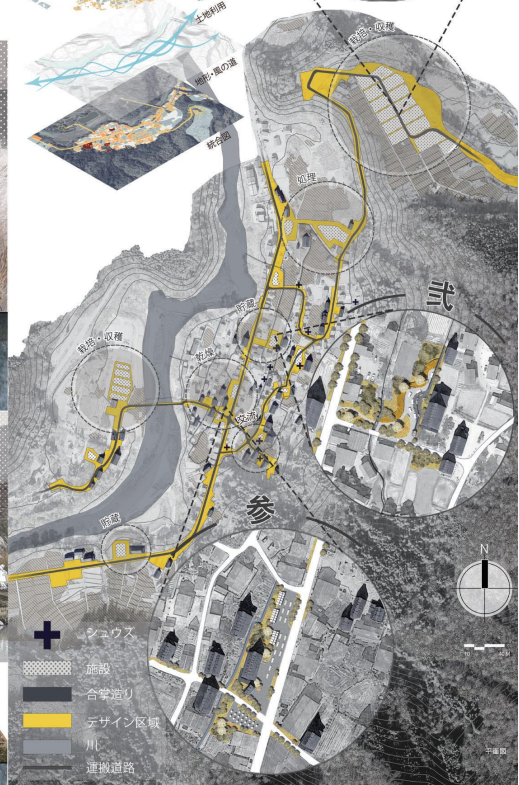
これからは地元住民と旅行者が一体となって白川郷の結の風景を紡いでいく。体験型の旅行へと移りゆくなかで、白川郷の関係人口は増加し多様化する。茅葺のプロセスを風景化したことで生まれる新たな結の風景が次世代に結の精神と伝統技術を継承していく。

◆マスタープラン

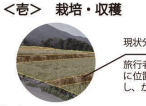
土地利用分析







<壱> 栽培・収穫

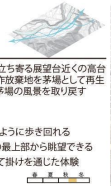


現状分析

旅行者が必ず立ち寄る展望台近くの高台に位置する耕作放棄地を茅場として再生し、かつての茅場の風景を取り戻す

プログラム

- 迷路 春夏は青く生い茂る茅の中を迷路のように歩き回れる
- 展望 秋は黄金色に光る茅の風景を棚田の最上部から眺望できる
- 作業 茅刈り・茅束つくり・道の縁への立て掛けを通じた体験



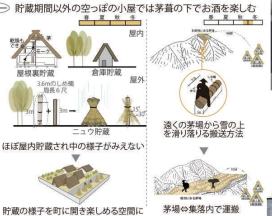
<弐> 乾燥・運搬・貯蔵

現状分析

主道路沿いの観光用駐車場を乾燥 / 貯蔵の場に転用し中心部の景観構造を変える

プログラム

- 茅葺 道路沿いに立ち並ぶ小屋の屋根で手軽に茅葺を体験
- クラフト 茅を切ったり編み込みをして自分だけの小物つくり
- 茅バー 貯蔵期間以外の空っぽの小屋では茅葺の下でお酒を楽しむ



<参> 協働・整形・選定

現状分析

かつての交流拠点シュウズを起点に茅葺に必要な加工作業を行いながら地元住民と旅行者が協働する場となる

プログラム

- 紐編み 地元住民に教わりながら旅行者は茅葺に用いる紐を編む
- 相互交流 茅葺屋根とシュウズの清涼感を味わいながら交流
- 職人技 茅葺に使えない曲がった茅を使ったストリートファニチャー